

事業名：1 養殖漁業研究事業

細事業名：(2) 魚病対策事業

期間：H18年度～

予算額：3,888千円（うち国庫1,482千円）

担当：養殖・漁場環境室（大里 純）

目的：

養殖魚の魚病による漁業被害低減のために予防対策、魚病検査、魚病の蔓延防止を行うことで養殖生産の安定化を図る。

成果の要約：

1 事業内容

(1) 魚病の防疫に関する情報収集

魚病に関する全国会議や地方ブロック会議へ参加し、魚病の防疫に関する情報収集を行う。

(2) 養殖衛生管理指導・養殖場調査・疾病対策指導

魚病の検査や、養殖場の巡回を行い、適正な養殖を推進し、食の安全を守るとともに、病気の蔓延などを防止する。

(3) 種苗生産魚・中間育成魚・養殖魚・天然魚に発生する問題となっている疾病対策

県内で問題となっている疾病について調査、研究を行い、蔓延状況を把握や対策を講じる。

(4) 大規模沖合養殖システム実用化研究への参画

新日鉄住金エンジニアリング株式会社が研究代表機関となって、農林水産省の補助事業「知」の集積と活用のもとによる研究開発モデル事業に「大規模沖合養殖システム実用化研究」を提案するために組成した産学官連携のコンソーシアムに弓ヶ浜水産株式会社、公立鳥取環境大学、米子工業高等専門学校等とともに参画した。提案した「大規模沖合養殖システム実用化研究」は採択され、当センターはコンソーシアムのメンバーと共同研究契約を締結した。

2 結果の概要

(1) 魚病の防疫に関する情報収集

魚病の防疫に関する情報収集のため、会議に参加した。参加した会議を表1に示した。なお、本年度の各会議は書面又はオンライン開催のみであった。

表1 R2年度参加会議

Table with 2 columns: 日付, 会議名. Lists various meetings held during R2, including national and regional fish disease prevention conferences.

(2) 養殖衛生管理指導・養殖場調査・疾病対策指導

R2年度の巡回件数は42回であった。うち、魚病対応は26件であった。その他の魚病対応も含めると、魚病診断件数は海面及び内水面で延べ43件であった（表2）。

近年は新たなサケ・マス養殖業者の参入などがあり、サケ・マスの生産量の増大に伴い、サケ・マスの魚病診断件数が増加している。今後はこれまでに見られなかったサケ・マスの疾病が発生することも考えられる。

(3) 種苗生産魚・中間育成魚・養殖魚・天然魚に発生する問題となっている疾病対策

内水面養殖では、ギンザケ及びビイワナの細菌性鰓病が頻発し、塩水浴により対処した。

陸上養殖では、マサバのアミルウージニウム症が発生し、銅ウールの設置により対処した。天然魚では、鳥取県漁協御来屋支所及び泊支所の定置網等で捕獲されたシロザケにサケジラミの寄生が確認された。サケジラミが寄生していたシロザケは延べ3個体であった。

(4) 大規模沖合養殖システム実用化研究への参画

R2年度は、オンラインの定例会等に延べ6回出席する等して、研究の進行にかかる情報交換を行った。なお、今年度は当研究の最終年度に当たり、成果報告書の取り纏めを行った。

成果の活用：

魚病被害の軽減及び蔓延防止を図った。

表2 R2年度魚病診断結果

Table showing fish disease diagnosis results for R2, categorized by water surface (海面) and indoor water surface (内水面). Includes columns for species, disease names, and counts across different months.

Table showing fish disease diagnosis results for indoor water surface (内水面). Includes columns for species, disease names, and counts across different months.